

- 1. タバコは町内で  
買いましょう。
- 2. 一日一円で最高五十万円の見舞金。  
交通共済に今すぐ加入しましょう。

# 水巻 報 廣

1月1日 (1973)

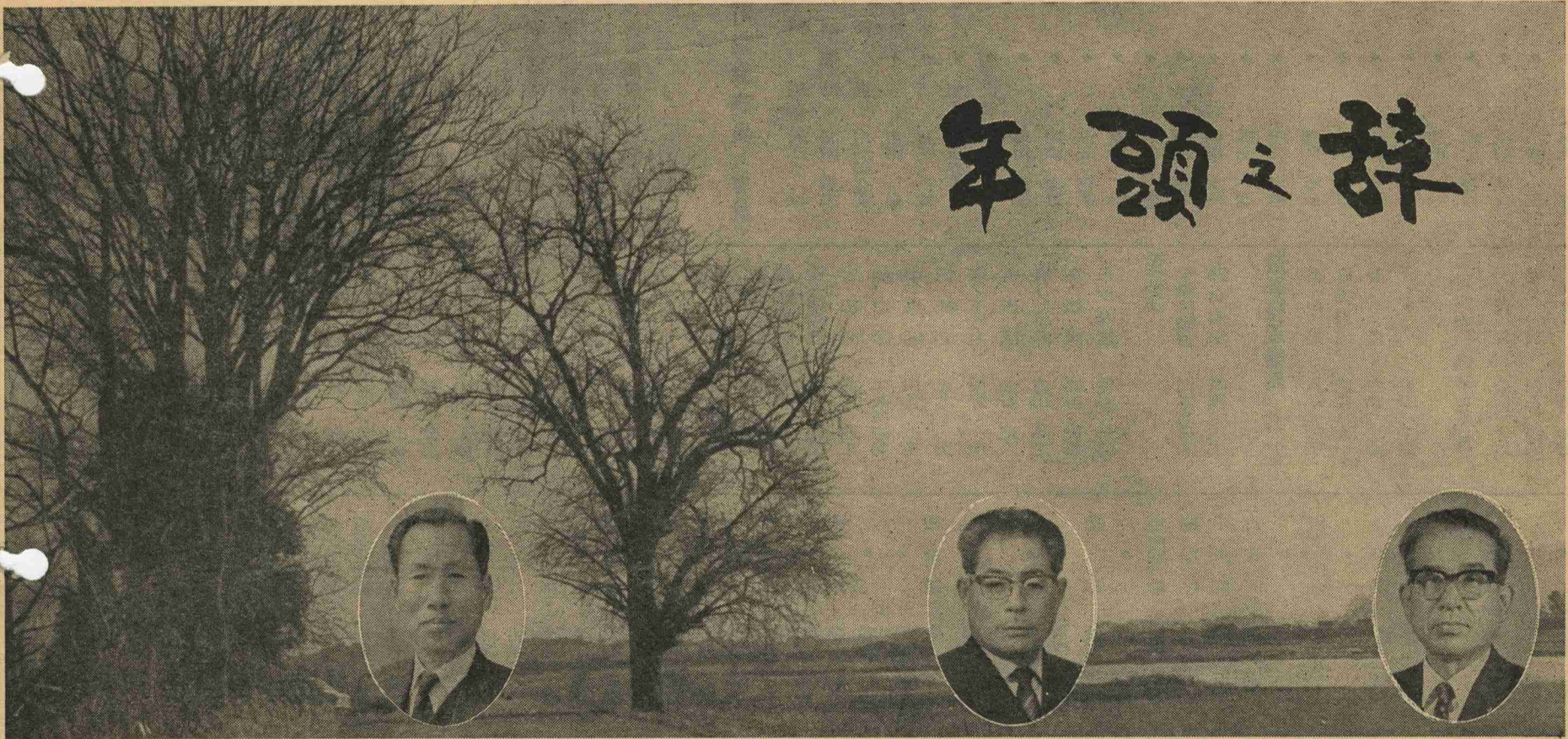
No. 292

毎月一回各家庭に配布

町の人口	(47年11月末現在)
人口	23,880
男	11,576
女	12,304
世帯数	6,837

発行所 福岡県遠賀郡水巻町役場 発行人 伊藤衛門 編集人 企画管理室調査資料係 印刷所 冷牟田印刷合資会社 電話(代表) (601) 1717

## 年頭之辞



### 実施計画で 新しい町づくりを推進

町民の皆さん、明けましておめでとございます。この総合計画にもとずき行政の計画的、効率的運営を推進し、昭和四十八年の新春を迎え、みなさまのご健康を心からお祝い申し上げます。

本年は、本町の新しい町づくりの方向と、それを実現する施策を定めるために、「水巻町総合開発計画」の基本構想、基本計画を二月に、実施計画を十二月に策定いたしました。

### 現実に立つ政治を志す 蛮勇を必要の町

新年明けましておめでとございます。淋しくなりました。

年頭に初日の暁を拝する時、身のひきまがる思いがします。誰しもが経験するところであり、私共は今年はその感を強くする年ではありません。

町と共に、笑いも涙もともに歩きました。閉山して早や二年の歳月が過ぎ去ったのであります。かつては3万6千人を数えた水巻町の人々は、今や2万3千人を切ろうとしているのです。私が努力するのは、ご老人の福祉

### 年頭所懐

水巻町の皆様明けましておめでとございます。

昭和四十八年の清々しい年頭に際し、先ず皆様のご健康とご多幸を、そして限りないご発展をお祈り致します。私共本町教育長に選任されて漸く一年余が過ぎましたが、身不肖のために十分な実績もあげ得ず、却って迷惑をおかけしたのではないかと、内心忸怩(じくじ)たるものがあります。

1ルなどを建設いたします。

厚生関係では、吉田改良住宅の建設をひきつづきおこなうとともに、新たに高松区、三ツ頭区に五カ年計画で改良住宅建設と県営住宅の誘致をおこなうよう努力いたしております。

次に老人の憩いと、教養を高める場所として老人憩いの家を建設いたします。

又都市化が進むにつれて、自然の野山が即ち公園といった環境はだん／＼なくなつてまいります。

そこで子供が安心して遊べる場所や、ご婦人がスポーツを楽しむための施設を本年度から年次計

画で整備したいと考えており、昨年一月鉾野課を設置し、「水巻町鉾野道」を建設しております。昨年から実施しております立屋敷から、古賀を経て猪熊に至る北部開発道路をひきつづき建設いたします。同時に、吉田の三反間、御輪地線、他五路線の舗装など、足もと道路の舗装整備を重点的に実施いたします。

このほか、鉾野復旧については、新年のこあいつといたします。

水巻町長 伊藤衛門

向上です。子どもさんたちの保育教育です。今までのような、ありきたりの政策でなく、一歩も二歩も前進する積極的施策を志しております。

老人憩の家、は真にご老人が生きがいを感じる園芸づくり、趣味を生み出す施設などを考え、子どもさんを中心に、預けられ心身豊かにの目標のもとに、情緒を主とした保育事業、教育の機会均等のため南中学校の防音改築、下二の第一、第二小学校の建設、各学校の体育施設の建設未来にならう。いかねばならない問題が山積みしているのです。

一割自治の水巻町、果してでき

議会 入江誠

で南部地区に一中学校二小学校の校舎建築を完了する目標で、四十八年度は、下二小学校一期工事および隣接地に町民プール建設を完了し、水巻中学校のプール建設を予定しております。

次は中学校完全給食の早期実施の問題ですが、学校給食は指導要領によって授業として位置づけられていますので、学校の建築計画とにらみ合わせ、四十九年度実施を目標に進めたいと思っております。

教育 柴田正生

本年は過去一年間の経験を生かして、皆様方のご指導のもとに町教育行政の発展のために一層の努力を傾けんと、覚悟を新にしている次第であります。どうぞよろしくお祈り致します。

ところでせつかくの機会であり、紙上を借りまして現在の町教育課題の主なものをいくつか申述べまして皆様のご理解とご協力を得たいと思っております。

先ず最初は学校建築の問題ですが、これについては水巻町総合開発計画の線にそって、昭和五十五年度ま



町議会議員 (議席順)
議長 入江 誠
副議長 浦田 重夫
委員 白石磯久男, 吉田 篤, 石塚 章, 大場寿基雄, 永沼 子, 栗川 正雄, 川添 定継, 占部 裕子, 原口 操, 鳥谷 利光, 石橋 国利, 高橋 次生, 森安 一朋, 原田 富穂, 福間 弘祐, 井地 直江, 小柳 重年, 田中 博, 加納 弘, 新川 隆昌, 松島 朝久, 江藤 一正, 峯浦 遼

駐在員 (順不同)
立屋敷 入江 政之
伊左座 吹田 弘利
二町住 中野 敏夫
二町住 後藤 正光
下二町住 入江 光雄
下二町住 松尾 正
みずほ団地 梶原 逸男
入江興産 長尾 満
林住宅 角 勝寿
吉田一 田中 秀雄
吉田二 藤崎 忠喜
吉田三 藤崎 香二
頃末 山下 勝
頃末 滝下 春雄
頃末 甲斐 堯
頃末 梶山 繁樹
頃末 井上 与壯
頃末 井上 康
頃末 村田 幸男
頃末 石橋 利夫
頃末 柴田己代治
頃末 林 伊勢男
頃末 永井 逸喜
頃末 高住 鮎産
頃末 美吉野団地 木村 俊弘
頃末 吉田 内尾 勝正
頃末 鯉口 中久保時男
頃末 中央 川北 克秀
頃末 机社宅 光木 操
頃末 宮ノ下社宅 桑野 茂
頃末 古賀 大野 正人
頃末 梅ノ木区 古川 英之
頃末 高松区 緒方 俊雄
頃末 三ツ頭区 仲谷 一盛

消防団
団長 石塚 定雄
副団長 原 福次
第一分団長 川島 弘
第二分団長 山本 正敏
第三分団長 安永仙之助
第四分団長 梯 和利
第五分団長 中野 敏夫
第六分団長 永沢 信夫
第七分団長 泉 卯之助
第八分団長 川島 弘兼
第九分団長 岡村 数男

民生児童委員 (順不同)
吉田一 内尾 勝正
吉田二 古橋 信
吉田三 岡部 淳子
吉田四 三吉フミ子
吉田五 松川 政敏
吉田六 藤井 清子
吉田七 藤井 三郎
吉田八 井塚友三郎
吉田九 原 福次
吉田十 光末 八郎
吉田十一 出利葉虎夫
吉田十二 柴崎彌一郎
吉田十三 木村 国実
吉田十四 柴田己代治
吉田十五 榎 明
吉田十六 榎山 義美
吉田十七 高橋スエ子
吉田十八 岡田 次雄
吉田十九 神崎 敬次
吉田二十 三浦 初義
吉田二十一 小手川良徳
吉田二十二 矢野 識
吉田二十三 中島 祐次
吉田二十四 藤井 輝夫
吉田二十五 藤井 徳男
吉田二十六 豊沢 徳男
吉田二十七 山本 ミエ

農業委員 (順不同)
森安 一朋
小田 大吉
入江 道彦
永沼 一朋
森安 正義
吉田 喬
松尾 金平
入江 種美
佐々木義雄
白石磯久男
木原 秋雄
山下 勝
武尾 金男
大場寿基雄
大場 金吾
光末 文雄
立屋敷 安部卯三郎
吹田 次敏
豊沢 麟兒
森安 正義
藤崎 和智
藤崎 邦雄
藤崎 秀夫
白石 秀夫
藤崎 邦雄
渡辺 邦雄
渡辺 邦雄
行正 豊子
行正 豊子
矢野 繁美

教育委員
教育委員長 山本 秀明
委員 江藤 小平, 行正 諄, 三好福美子
生産組合委員 (順不同)
立屋敷 安部卯三郎
伊左座 吹田 次敏
下二 豊沢 麟兒
二 森安 正義
吉田一 藤崎 和智
吉田二 藤崎 邦雄
吉田三 藤崎 秀夫
吉田四 白石 秀夫
吉田五 藤崎 邦雄
吉田六 渡辺 邦雄
吉田七 渡辺 邦雄
吉田八 行正 豊子
吉田九 行正 豊子
吉田十 矢野 繁美

職業訓練生募集
八幡総合高等職業訓練校では次の要領で生徒募集をおこなっております。
一、高等訓練課程(二年制)
・科名
機械科・板金科・製缶科・溶接科・電気科
二、高等訓練課程(一年制)
・科名
機械科・電気科
・応募資格
高等学校卒業又は同等以上の学歴をもつ身体健全な男女
募集期間
四十七年十二月一日
四十八年一月十四日
出初式
恒例の出初式は、一月七日(日)旧水巻中学校運動場でおこなわれます。

水巻みなみ保育園々児募集
町福祉施設課では、児童福祉法の規定に基づいて水巻みなみ保育園々児を次のとおり募集しております。
設置場所
水巻町大字一、698番地1(上二町住前バス停横)
保育内容
健康、自然、社会、言語、音楽、製作、年中行事等
保育時間
七時三十分～十八時まで
入園期日
四十八年一月一日
受付期間
自 四十七年十二月十一日
至 四十八年一月十日
受付場所
水巻町役場福祉施設課(電話六〇一四三二二)
保育料
厚生省の示す基準による。

月五五〇円で 老後のしあわせを
七〇年代はまさに年金時代です。産業の育成から住民福祉優先と政治の方針が替り、特に年金制度の改善が国民の注目の的となっております。ところが、若い人には年金は、遠い将来のことと考え無関心の人が多くあります。ところが、年金は無関係でしょうか。このように、目まぐるしい社会で、いつ私たちの身の回りに災難が振りかかるとはわかりません。怪我や病気のため働けなくなったり、家庭の大黒柱を亡くした家族が困窮することはよくあることです。このような場合には年金に加入することをおすすめします。八〇年代には、四人に一人が老人となります。少額の貯蓄があっても、最近のように物価が上れば生活しにくくなります。年金は、物価や生活水準が上れば引上げられるようになっておりますので、若いうちに掛金を積みため、将来にそなえましょう。

